

第63回IPネットワーク設備委員会 (令和3年3月5日)における主な意見

～「事故報告・検証制度等タスクフォース」等関係～

令和3年3月11日
事故報告・検証制度等TF
事務局

- 事故の報告制度で、インターネット関連サービスとあるが、クラウド等はとても重要。設備構成なりサービスが複雑化し、例えば、クラウドを活用したメールサービスが停まるなど、クラウドにかかる事故も多発し、設備の範囲外でも我々の生活に影響を及ぼしている。事前にこれらの全てに網をかけるのは難しいため、発生した事故から原因を切り分け、制度をつくっていくアプローチが望ましい。
- 事故対処についても、サプライチェーンが複雑化し、OTTサービスが普及し、アプリも複雑になる中で、3万人等という定義が難しくなっている。
- ステークホルダーが増え、多様化してきているため、CONNECT※の取組み等の情報共有等のためのプラットフォームとどう連携していくかについても、全体としての信頼性のためのアイテムとして位置づけてはどうか。
※インターネットトラフィック流通効率化検討協議会(Council for Network Efficiency by Cross-layer Technical membersの略)
- キーワードとして、PDCAでは対応できないことを前提とした、システム設計が必要であり、OODAにかわってきていることを意識した制度設計が重要。
- PDCAにおいては、全てのシステムを把握している前提で、ガバナンスコードを策定するとなっているが、例えば、自然災害と人災をわけた場合、自然災害では予期できないことが起きるし、人災の中でもサイバー攻撃の場合は予想できないような技術的な実装上の問題点がサプライチェーンの中で発生する。また、サイバー攻撃ではなく、意図的ではない事故についても、OSSなり、マルチステークホルダーやサプライチェーンで起きているので、これもガバナンスコードとして、企業の中における管理に関係してくる。事故調査した結果として、ガバナンスコードによる対策としてもでてくるので、整理が必要。

- プロダクトとサービスが国際的につながっている点についても強く意識することが必要である。 国際機関、例えば、IGF、ITU、ISO等において、この問題を国際的にどうトレーシングしていくか整理が必要。 問題解決に対するトレーシングルールについては、国際ルールで担保しないと事故調査自体が難しくなるのではないか。国際問題としてのトレーシングも議論がしっかり必要。
- 過去5年間ににおける事故検証の中では、ヒューマンエラーや設備の不備等、びっくりするような原因が多々あった。他方、国際化関係で、通信事業者の先について、一切、原因追及や検証ができない事案もあった。 外国企業等において、ここから先は情報開示できないという部分を少しでも開示して頂けるような仕組みを考えることが必要。 この点、通信事業者がその事故について、総務省に報告する際に、外国企業等の機器等に関することを報告項目とした場合には、当該機器等の事業者と通信事業者との間の契約が高くなる等の可能性も考えられるので、その他の適当な仕組みが必要。
- 事故検証会議では、原因究明に至らなかった一方、機器メーカーでも当時の状況を再現できないので、宇宙線によるソフトウェア等の可能性というレポートもあったところ、本当の原因を追求することが難しいということがありえるということも考慮して、どのように事故調査のシステムを考慮するかの知恵をつけていくことも重要。

- 仮想化により、色々と新しいビジネスモデルがでてくるのが、これらをしっかりとおさえるべき。非通信事業者、サードパーティによる関与のレベルにはいろんなパターンがある。
- 仮想化については、それぞれの機器の中での仮想化と、仮想化された機能が物理的な機器の間を動くことが違うことを明確に分けること必要。デジタル化、IoT機器の相互接続の次として、ネットワーク化とオンライン化、つまり、仮想化NW機能がオンライン化する。そのため、責任分界点についても、機器に閉じている中でのマルチステークホルダー、そして、機器間でのマルチステークホルダーとなるのかについての整理が重要。
- サービスの主軸が、音声からデータに変わってきていることも重要。ワイヤレス固定電話の検討について、無線で音声を通すこともこれへの導線となるもの。音声を無視するわけではないが、データ通信への重要性を考える必要。
- クローズドな環境でのシステム管理なり規制が可能だった時代から、OSS等のグローバルサプライチェーンを意識した、信頼性なり対処が必要。これまでとは関係するプレーヤーが異なり、また、拡大してくることについて、大きな変化として定義が必要。
- サイバーセキュリティの話が信頼性の中で大きな位置づけとなる。OSS、グローバルサプライチェーン、5G等、今までの通信事業者に閉じないところでの影響が大きくなる。サイバーフィジカルにおけるサイバーセキュリティ対策など、OODAループの形にかかわらざるを得なくなる。
- これまで仮想化のルールを決めなかったのも理解できる。精緻なルールをつくらず、状況に応じ、規制等をつくっていくという、PDCAをOODAにかえていく、大きなシステム管理と制御の方向性の変わり目ということについて、今回整理し、位置づければいいのか。